

2022年度第2回町田市食育推進計画策定及び推進委員会 会議録要約

会議体の名称	町田市食育推進計画策定及び推進委員会	
事務局（担当課）	保健所 保健予防課	
開催日時	2023年2月2日（木） 13:30～15:30	
開催場所	オンライン及び会場開催（町田市民フォーラム 視聴覚室）	
議題	1 開 会 2 報 告 (1) 第2回町田市保健所運営協議会の報告について (2) 2022年度の食育推進事業について 3 議 事 (1) 第6次町田市保健医療計画、及び第3次町田市食育推進計画について 4 閉 会	
公開の可否	会議	公開
	会議録	公開
出席者	委員	調所 勝弘 (学識経験者) 戸羽 一 (東京都町田市歯科医師会) 千葉 勢子 (町田市法人立保育園協会) 大崎 志保 (町田市私立幼稚園協会) 矢島 加都美 (町田市公立中学校校長会) 進藤 悠 (市内小学校栄養教諭) 米澤 加代 (市内大学教員) 新倉 敏和 (町田市農業協同組合) 佐藤 孝一 (市内農業者) 松井 大輔 (町田商工会議所 常議員) 栗原 慶史 (町田集団給食研究会) 村上 律子 (町田地域活動栄養士会) 亀田 文生 (町田市観光コンベンション協会) 大野 薫里 (町田市公立小学校 PTA 連絡協議会) 大澤 彩 (町田市立中学校 PTA 連合会)
	事務局	保健予防課
欠席者	委員	五十子 桂祐 (町田市医師会) 岩崎 直美 (町田市公立小学校校長会) 川上 璃子 (市内高等学校教諭) 竜崎 常明 (東京都町田食品衛生協会)

配付資料	資料1 2022年度に行われた食育推進事業 資料2 保健医療意識調査の結果について 資料3 第2次町田市食育推進計画の進捗状況 資料4 (仮) 第3次町田市食育推進計画 体系図 (案) 町田市食育推進計画策定及び推進委員会委員名簿 第2次町田市食育推進計画 町田市民の保健医療意識調査報告書 (案)
------	---

検 討 経 過

1 開 会

2 報 告

(1) 第2回町田市保健所運営協議会の報告について

委員長：まずは、事務局から報告を願いたい。

事務局：はじめに、町田市保健所運営協議会（以降、運協と記載）について説明する。

当協議会は、町田市の保健医療計画や地域における保健活動の推進について審議する協議会として2015年に設置された。現在策定準備を行っている次期保健医療計画の進捗についても運協で管理しており、食育推進の学識経験者として調所委員長が委員を務めている。

なお、保健所が所轄する業務は多岐に渡るため、個別計画等を有する場合はそれぞれが設置する委員会や組織で進捗管理を行っている。

次期保健医療計画では保健所内の計画が一体化されるため、食育推進計画についても当協議会で管理されることとなる。一体化により、市民へ包括的で切れ目のないサービスを提供できるようになる。

12月に開催された第2回運協では、保健所各課の2021年度の実績報告と2022年度の事業報告等があった。これらの会議録は市のホームページに掲載されている。

本日は食育について4点報告する。

1点目、2021年度と2022年度の実績報告について。

2021年度は1日の野菜摂取量増加についての普及啓発と親子対象の食体験事業の実施、関係団体と連携した食育に関するイベント等の実施を報告した。2022年度の実績としてはコロナ禍における食育の推進としてデジタルサイネージやSNSを活用した取組を報告した。

2点目は現在の第5次町田市保健医療計画の進捗状況について。

計画の中に、栄養・食生活・食育の実践という施策があり、栄養では成果目標を掲げている。野菜摂取量の増加、普段の食事でバランスよく食べる割合の増加、食塩摂取量削減の普及の3点について指標として進捗状況の報告を行った。2022年度に行った市民意識調査の結果では野菜摂取量の増加及びバランスよく食べる割合の増加では目標値には達しなかったため、今後も力を入れていく。

3点目、8月に実施した市民意識調査の報告について。今回の事前資料としてメール送付しているので、確認いただきたい。

4点目、次期保健医療計画の体系図について。体系図案において、「食環境

整備」という言葉を掲げている。この言葉が理解するのに難しいのではという意見があり、委員長から説明があった。

食育に関する質問は他になかったが、最後に子ども食堂について、計画の中ではどこに位置づけられるかについての質問があった。現在、市では、子ども生活部の子ども家庭支援センターで情報を取りまとめており、運営自体は地域や町内会でおこなっている。

委員長から補足説明はあるか？

委員長：保健所の運営業務で食育が注目されていると感じた。

今の報告について質問等はあるか。

委員一同：なし。

(2) 2022年度の食育推進事業について

委員長：まずは、事務局から説明を願いたい。

事務局：【資料1】に2022年度に行われた食育推進事業の一例をまとめた。

庁内各課の取組を記載したため、委員からも補足やそのほかの取組についてお話しいただきたい。

委員長：朝食レシピコンテストについて、矢島委員からお話しいただきたい。

委員：今年で3回目。今までも家庭科の課題で夏休みや冬休みに食事作りの課題を行っていたが、「朝食」「地産地消」をテーマとして取り組むようになった。給食の献立に取り入れたり、表彰式が行われることにより誇らしげな生徒を見ると実施して良かったと感じる。地産地消は教科書でも勉強するが、レシピコンテストをきっかけに、実際に自分で店に行き食材を選ぶので子どもにとってよい経験となっている。

委員長：続いて、町田市農業祭について、新倉委員からお話しいただきたい。

委員：天候に恵まれた中で開催できた。今年は2日目にきりり町田まつり（来場者数13万6000人）と同時開催したことで、昨年度に比べ来場者が増えたと推測している。

また、野菜の品評会を3年ぶりに開催できた。市民に生産者の顔を見てもらうため、都知事賞や市長賞の授賞式を同日開催した。

花木の販売、農業委員会によるわら細工の体験・販売、農業関係団体ブースの出店や、まち☆ベジグルメ店（飲食店）の出店があった。

資料に画像が掲載されている宝船は町田市青壮年部会が作成し、宝船で使用した野菜は格安で販売した。

委員長：2022年度食育推進事業について何か質問はあるか？

委員一同：なし。

委員長：その他の取組についても、お話しいただきたい。

委員：観光コンベンション協会の取組として、3点お話しする。

1点目は4月に開催した四季彩の杜での春フェアについて。市内で生産された食材を使用した里山弁当を販売し、大変人気だった。

2点目、玉川大学のレタス栽培やシルクメロン農場の見学ツアーを開催した。玉川大学では、LEDライトを使用してレタスを栽培している。シルクメロンは水耕栽培の様子を見学した。

3点目に、四季彩の杜薬師池公園での焼き芋の販売について。べにあずま、べにはるか、安納芋をJAから購入し、200kg売り上げた。また、町田産とうもろこしのポップコーンや町田産柚子の柚子酒も販売し、大変好評であった。

委員長：食べるだけではなく体験ができる観光も食育につながると思う。

他の委員の取組についてもお話しいただきたい。

委員：地域の取組について。地区内の神社主催のイベントがあり、そこで野菜の販売や敷地内の竹を利用したイベントを夏までに一度開催したいという話があがっている。農家をこれから探すので、ぜひ協力を願いたい。

委員：大学の取組として、小学1年生～6年生の子ども対象の体験型のイベントを開催した。「野菜を学んでおいしく食べよう」をテーマにした教室で、野菜について話をした後、子どもだけで調理・喫食を行った。好評だった。

委員：小学校での取組として、4年生と5年生を対象に、民間企業の協力の下、野菜摂取量の測定を行い、野菜摂取についての授業を行った。結果が良くなっている児童が多かった。

委員：幼稚園の取組について、4点お話しする。

1点目、教育活動の中でオンラインを通して、日本各地や世界とつながることができるようになったため、世界の料理や郷土料理を作る機会が増えた。

2点目、大学生との連携について。近隣の大学生（有志）がフリーマーケットでの収益で野菜の苗を買い、幼稚園に寄付してくれている。

3点目、保護者へ賞味期限が近くなった備蓄食品を渡し、アレンジレシピを募集している。考案されたレシピは園の SNS にて公開している。

4点目、節分の取組について。節分といえば豆まきだが、大豆や豆について学び、納豆づくりなどを通して年齢が小さい園児へも食育を行った。

委員：自身の子どもが通っている幼稚園では、年長児が園長に食べたい物をリクエストする機会がある。今年は太刀魚が食べたいというリクエストがあり、給食で提供してくれた。他にも、園で旬の食材や果物の産地別の食べ比べ体験なども行っており、保護者としてもいい経験ができていると感じる。

委員：保育園の取組として、4点お話しする。

1点目、市内農家に協力いただき、野菜や稲を育てた。実際に自分たちで育てることにより、好き嫌いの克服に繋がっている。

2点目、5歳児を対象にサンマを炭火で焼いて丸ごと食べる体験をした。今年はサンマの価格が高く大変だったが、毎年行っている経験はさせたいとの思いで実施。子どもたちは頭、中骨、尾を残してきれいに食べていた。

3点目、餅の提供について。おはぎやきりたんぽに加工するなど、年齢ごとに安全に食べられるよう配慮し、餅つきや鏡餅づくりの体験を行っている。

4点目、3月に子どもが選んだメニューの給食を作っている。今年は保護者に選ばれたメニューのレシピ配布を検討している。

委員：子どもの食育に協力してくれる、市内農家一覧のようなものがあれば、分かりやすくして良いと感じる。

委員長：市内で横のつながりを作り、どんどん膨らませていけると良い。
その他、各委員からの報告はあるか。

委員一同：なし。

3 議事

(1) 第6次町田市保健医療計画、及び第3次町田市食育推進計画について

事務局：第6次町田市保健医療計画、第3次町田市食育推進計画について、各分野の専門家及び保護者の皆様、それぞれの立場から2点ご意見をいただきたい。意見は、次期計画の内容、そして実際の取組に活かしていく。

1点目、「町田市民の保健医療意識調査報告書（案）（以降、報告書と記載）」から見える市の食育について【資料2、資料3】。

皆様へ事前に送付した報告書は、計画策定の指標となる。現在、報告書からみえる課題を分析し、次期計画の骨子作成を進めている。

【資料2】項目3に、食育に関わる回答結果を載せている。

今回の調査で、町田市民は食育の認知度は全国と比較して高いが、関心度が低いことがわかった。「知っているが、関心はない」という方が町田市には多いと言える。その他、新型コロナウイルス感染症の影響も見られ、中食の拡大・外食の縮小や、大人の共食頻度減少などが結果に表れている。

【資料3】に第2次町田市食育推進計画の目標指標の項目、達成状況をまとめた。14項目の指標のうち8項目を調査で評価する。残りの項目は、事業実績値にて評価する。

【資料2】および【資料3】からみえる市の食育の課題等について、意見をいただきたい。

委員長：各分野からの視点で気づいた点や市の課題について、意見や感想を一人ずついただきたい。

委員：歯科医師の立場より。咀嚼機能や嚥下機能が育っていない子どもが多い。例えば、丸のみしたり、口をぽかんと開けている。マスクをしている影響はあると思うが、歯科医師が早期発見し、指導していく必要があると感じる。

委員：保育園の立場より。簡単な食事になっている家庭が多く見受けられる。食事バランスや野菜摂取量など、保育園で感じていることが調査結果に表れていると感じた。

また、咀嚼に関して、丸のみやずっと口にため込んだままという子が年々増えており、その危険性について伝え方を検討している。

町田産農産物を売っている場所がわからないという保護者が多いので、保育園でも周知していく。

委員：幼稚園の立場より。子どもの朝食または夕食を誰かと一緒に食べる「共食」の割合の減少については、保護者へのアプローチが必要と感じた。

委員：中学校の立場より3点お話しする。

1点目、文科省の学習指導要領には食育の指導について記載があり、中学校では年に2～3回行っているが、単発の授業となり、定着していないように感じる。

毎日給食のある小学校とは異なり、中学校では日常的な食育が難しい点が問題と感じる。2025年の3学期から段階的に中学校の全員給食が始まるので、当委員会では何か発信できたら良いと思う。

2点目、「家族がそろって食事ができない」の項目について。中学生の割合が低い理由としては、部活や塾など、学校以外でも忙しく、食事時間が他の家族とずれていることが考えられる。

3点目、キャベツの収穫・喫食の体験を家庭科で行った。野菜のおいしさを伝える体験として市内の農家に依頼できる場所があると嬉しい。

また、他自治体に勤務していた際に、その土地で古くから栽培されている野菜を使用したメニューがあり、子どもたちに大人気で小中学生全員知っているものだった。町田市にもそのようなメニューがあればいいと思う。

委員：栄養教諭の立場より。食育の授業を保護者に公開しているが、時間帯が合わないなど、11人程度の参加だった。もう少し時間帯を広くとることや保護者向けの配布物を定期的に作るなどして、家庭を巻き込んだ食育を行いたい。

委員：大学の立場より。朝食を食べない最も大きな理由で、「時間がない」「食欲がわかない」というのがあるが、生活全体の改善が必要と考える。家庭環境等が大きく関係する。また、回答者は意識が高い方が多いと考えられるので、回答していない方も含め無関心層へのアプローチ方法も課題である。

委員：JAの立場より。「町田産農産物を意識して購入するか」が2018年から9%減っているのに驚いた。
現在アグリハウスは市内に5店舗あり、そこでは午前中のうちに野菜がほとんど売れ、午後には完売している。品不足を改善するために工夫して販売している。その他、生産者の高齢化が年々進んでおり、後継者不足も課題である。

委員：個人的な話になるが、小さい頃は子どもたちと食事する時間があつたが、成長とともに勉強などで朝遅くまで寝ていて朝食を一緒に食べられなくなった。野菜摂取量増加や、一緒に食事をする時間の増加については、子どもの生活時間が関わるため、各家庭で工夫するなどしないと、改善は難しいように感じる。

委員：商工会議所より2点。1点目、【資料3】で1日の野菜摂取の目標量や摂取量がグラムで書かれているが、計量方法が難しいと思った。2点目。外食が多い人はストレスを上手に解消できているという結果があり、商業として市民に貢献できていると感じた。

委員長：野菜摂取量はどのようにして量っているのか。

事務局：「小鉢何皿分の野菜料理を摂取しているのか」という設問があり、野菜の種類を問わず一律1皿70gとして計算している。そのため、実際の摂取量とは異なる場合がある。

委員長：調査方法は前回調査と変わらないか。

事務局：ない。

委員：集団給食研究会の立場より。20代の朝食欠食が多いとあったが、栄養指導をしていると、20代より上の世代では特に、働き方改革やリモートワークの活用により、朝食を食べる機会が増えた人が増えたように感じる。
また、家族がいる世帯では、食事バランスを考えて食べている印象がある。逆に年齢問わず、単身世帯は野菜がなかったり、コンビニなどで簡単に済ませるといのが見受けられる。単身世帯に大きくアプローチができるかと思う。

委員：地域活動栄養士会より。アンケート結果から若い世代の「朝食欠食」や「若い女性のやせ」などについて、食育の必要性を感じ、「二十祭まちだ」や「若い女性の健康週間」などのイベントでパネル展示などを図っていきたい。また「減塩」や「災害備蓄食品」「フレイル予防」についても意識が低いいため、啓発活動の必要性を感じた。

委員：観光コンベンション協会の立場より。今回コロナ禍という特殊な時期の調査だということを考慮した上で、結果を見るのが重要である。外食をほとんどしない方や、コロナ禍の始まる前と後で生活や身体、精神状態はどう変化したかについての結果は、まさにこの特殊な時期の現れだと感じる。
「共食」の割合（成人）が現状値よりも2022年度の値が減少している。生活習慣が変化して外食機会も減ったと考えられるが、共食が減っているというのはどのように評価したらいいのかわからなかった。

委員長：確かに今回の調査はコロナ禍というところを考えながら評価する必要があると感じる。

委員：小学校PTAの立場から。各家庭により、家庭環境や生活スタイルが異なるため、それを考慮した項目になると良いと感じる。また、まち☆ベジを使用した弁当の販売について、普段から購入できるようになると良いと感じた。

委員：中学校PTAの立場から。家庭環境により生活スタイルが異なるため、調査項目がどの家庭にも当てはまるわけではないように思う。

委員長：食の視点だけではなく、多様な生活環境も考慮する必要がある。その他意見はあるか。

委員一同：なし。

委員長：続いて、2点目、次期計画における食育分野の取り組みについて話し合う。
まずは事務局から説明願いたい。

事務局：次期計画では、保健所の3つの計画「保健医療計画」「食育推進計画」「自殺対策計画」が一体化する。これまで以上に、市民が包括的なサービスを受けられるよう、今後はそれぞれの強みを活かしながら分野横断的に取り組む必要がある。

【資料4】に第6次町田市保健医療計画の食育分野のイメージ図を示した。基本目標や取組の方向性を整理するにあたり、皆様から、次期計画における食育分野の取組についてご意見をいただきたい。

委員長：各委員から意見はあるか。

委員：商工会議所の立場から。賞味期限や消費期限が正しく認知されておらず食品ロスにつながっている。ライフスタイルの変化に合わせ、消費者に正しく認識していただくのが必要だと思う。また、冷凍技術が上がっているので、家庭向けに冷凍に対する普及啓発も必要と感じる。

委員：地域栄養士会の立場より。視点1に塩分についての項目を作っていただきたい。

事務局：現計画でも、減塩の普及啓発を重点目標に設定している。次期計画でも引き続き設定する。

委員：小学校PTAの立場より。今の小学校1～3年は小学校入学時からコロナ禍のためマスク生活をしている。特に視点4の食事マナーの伝達については、子ども達の現状にも配慮していただきたい。また、塩分について、給食の塩分量を給食だより等を書いてあるとよいと感じる。

委員長：他にあるか。

委員一同：なし。

委員長：以上で報告、議事を終了する。

4 事務連絡

5 閉会

以上